

遠坂凜の日常4



DOJIN
R18
Adult Only

前回までのお話

ある日、遠坂凜は、凜のロンドン行きに問題が発生したと言われ、魔術協会に呼び出される。

そこで、ロンドン留学の条件として間桐臓硯を後見人とし、合わせて特待生となれば留学は認められるだろうと告げられる。

しかし、それは魔術協会の罠だった。



凜に対して邪な想いを抱く協会の勢力から送り込まれた臓硯は、後見人とは名ばかりで、実態は凜を性奴としてロンドンの時計塔に送り込む事を目的とした調教師であった。



恥辱の限りを尽くす臓硯に対し凜も必死の抵抗を試みるが、騙されて首に装着した魔導石によって魔力を封じられた凜に成すすべなく、縄で縛られ体の自由を奪われて遂に犯されてしまう。



更には口枷を嵌められ、臓硯の男根で強引に口腔を犯された挙句、子宮に精飲蟲を寄生させられてしまう。

この精飲蟲は胎内に射精された精子を摂取して消化するため妊娠の心配がなくなるが、精飲蟲が吐き出す蠱毒は快楽神経を極限まで活性化させるため、宿主は強烈な快感で狂わされてしまう。



その強烈さは、例え相手が憎むべき臓硯であっても意思に反して体を開いて
 しまう程であった。
 精飲蟲の蠱毒で狂わされた凜は、口枷で閉じられない口腔を忌むべき臓硯の舌で
 犯され、全身に精液を浴びせられたにもかかわらず陶然としてしまう。



翌日、学園へ登校した凜だったが、
 学園のトイレの最中に、タベ臓硯にされた
 剃毛や風呂場でのセックスなど、強烈な
 陵辱シーンを思い出してしまう。
 その拍子に精飲蟲が蠱毒を分泌し始め、
 堪らずトイレの中でオナニーに耽ってしまう。

そして...



精飲蟲に寄生されている凛は、精飲蟲が吐き出す蠱毒に快楽神経を犯されつつあった。
蠱毒で活性化された凛の快楽神経は、性体験の浅い少女では得られる筈の無い強烈な快感を凛にもたらしていた。
その麻薬にも似た快感は凛の精神バランスを狂わせ、凛にあり得ない行動や思考をさせるようになっていた。





学園の便所で
自慰にでも
耽っていたか？



遅かったな。



な、
何をバカな
ことを…。

そんな事
するわけ
ないじゃない。



スカートの中が
湿っているぞ。

何する
のッ！



誤魔化さんで
よい。

僕にはお主の
行動が筒抜けだ
と言ったでは
ないか。

それに！



向こうで
スカートの中
を調べてやる。

来い!

ちよ、
ちよっと。



夕べは湿った
下着どころか
濡れた秘肉を
晒したのじゃ
驚くことは
なからう?

あ、あれは
アンタが
無理に...

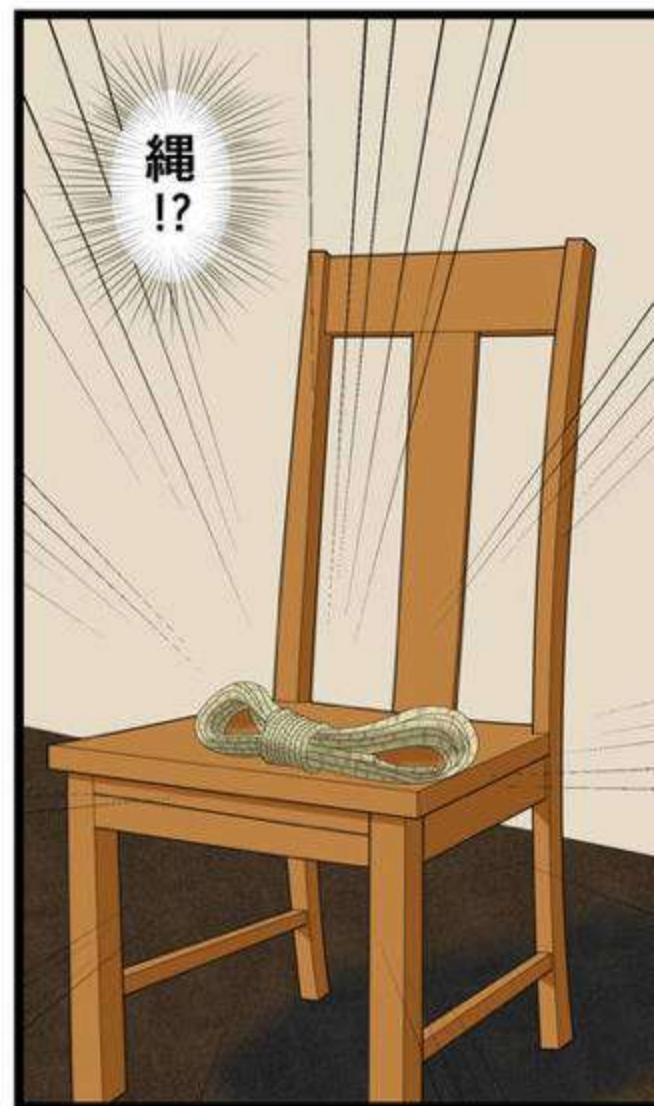


嫌い、
嫌よ。

あの椅子に
座れ!



縄で椅子に
縛り付ける
つもりだわ!



縄!
!?



あ?

IP+



え...
え...

そ、そんな
ワケ...

どうした?
乳首が勃って
きたぞ。

縄を見て
興奮したか?



アンタ、
またこんな事
して、何度私を
辱めれば気が
済むのよ？

くっ！

こんなに
簡単に縛られたり
しないのにッ！

首の魔導石さえ
無ければ

ギ

ギ

ふっ、
文句を言って
いる割には、



昨日の今日で
もう縄の味を
覚えたか？

ああッ！

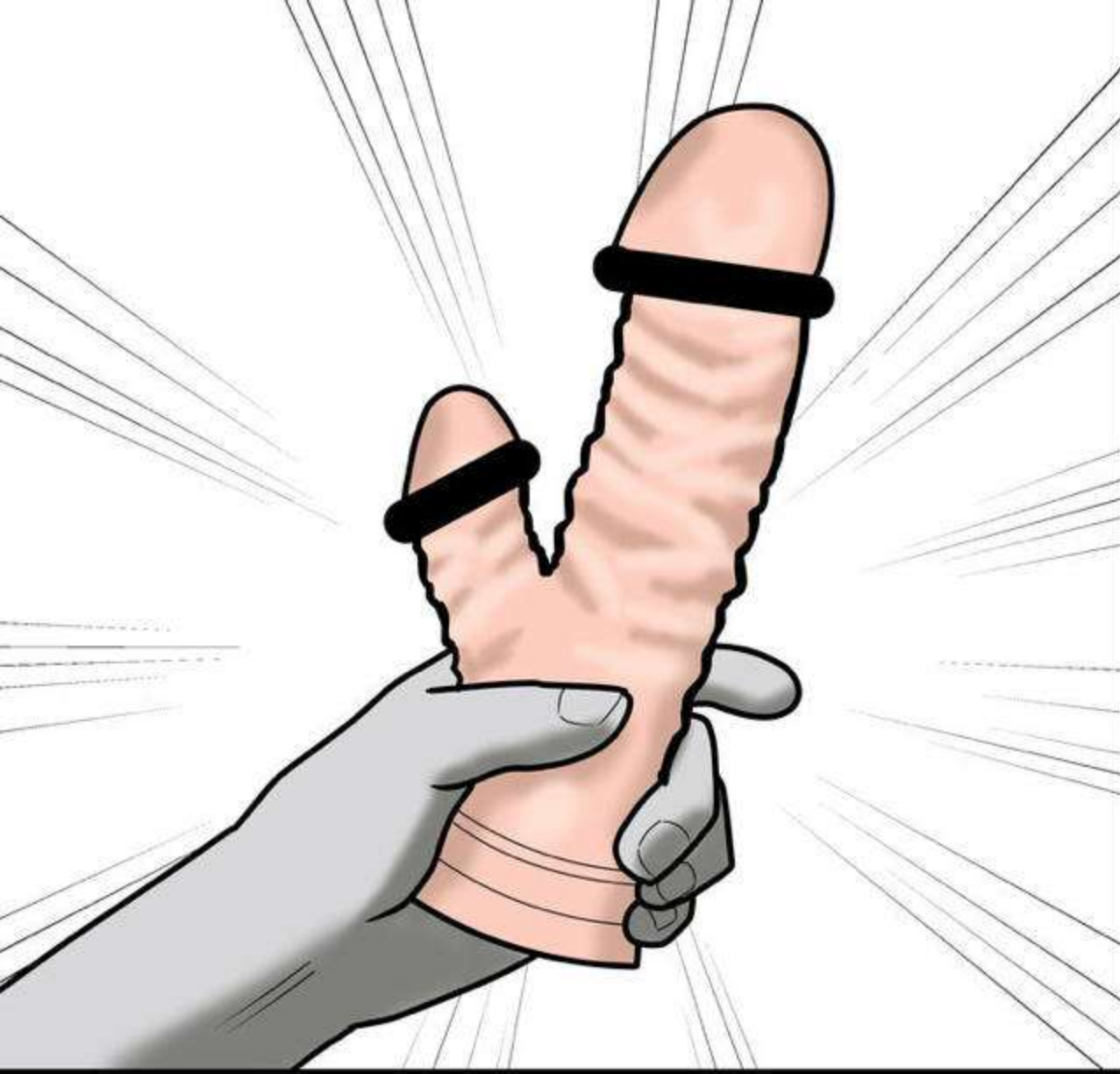


んん

ホホ、
縛った
だけで
もう濡れて
いるでは
ないか。

グ

グ





自慰好きの
お主なら
気に入る筈じゃ。

好きじゃ
ないしッ!



そんな物
気に入るワケ
ないわッ!

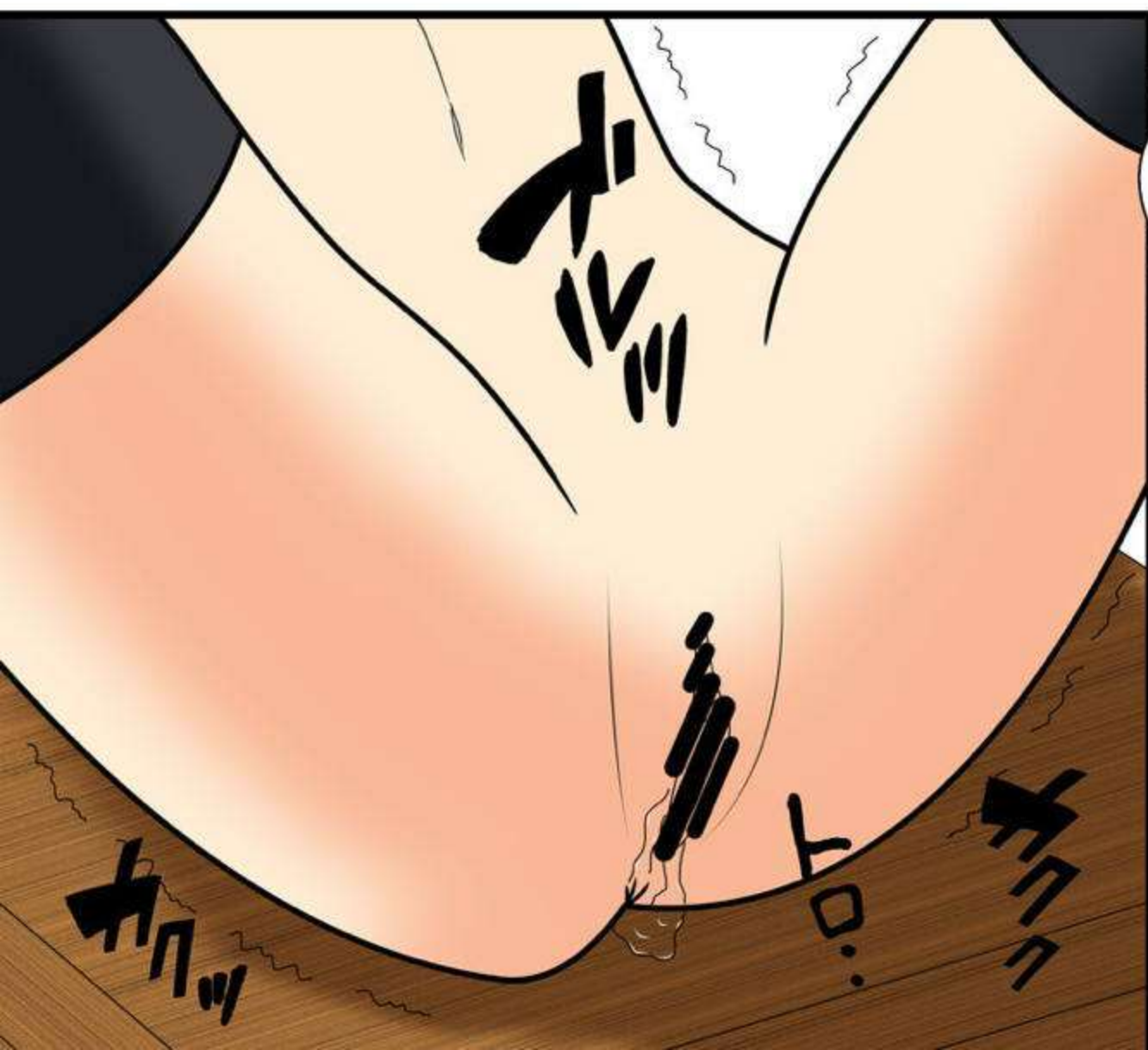
でも



そんなモノ
使わないで!

そう毛嫌い
するな。

それに



アレを入れられ
ると、どんな
感じなの
かしら...

じき
じき



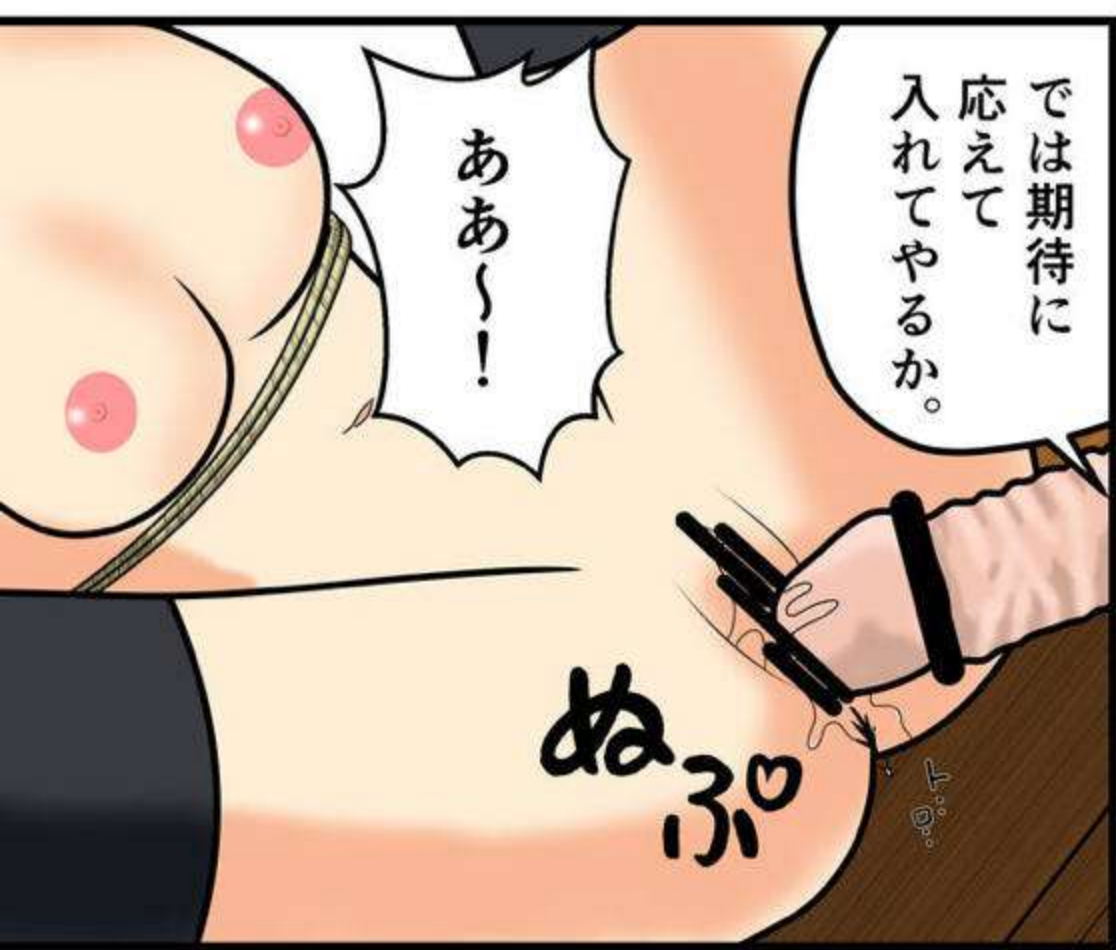
ち、違う

くくくっ!
期待して
おるな?



んんッ!

何もしと
らんのに
次から次と
蜜が溢れて
くるわ。



ああ〜!

では期待に
応えて
入れてやるか。

ぬふ



しかし
この濡らし様は
尋常でないぞ?

そんな、
イヤラシイ
モノ使わな
いで…。



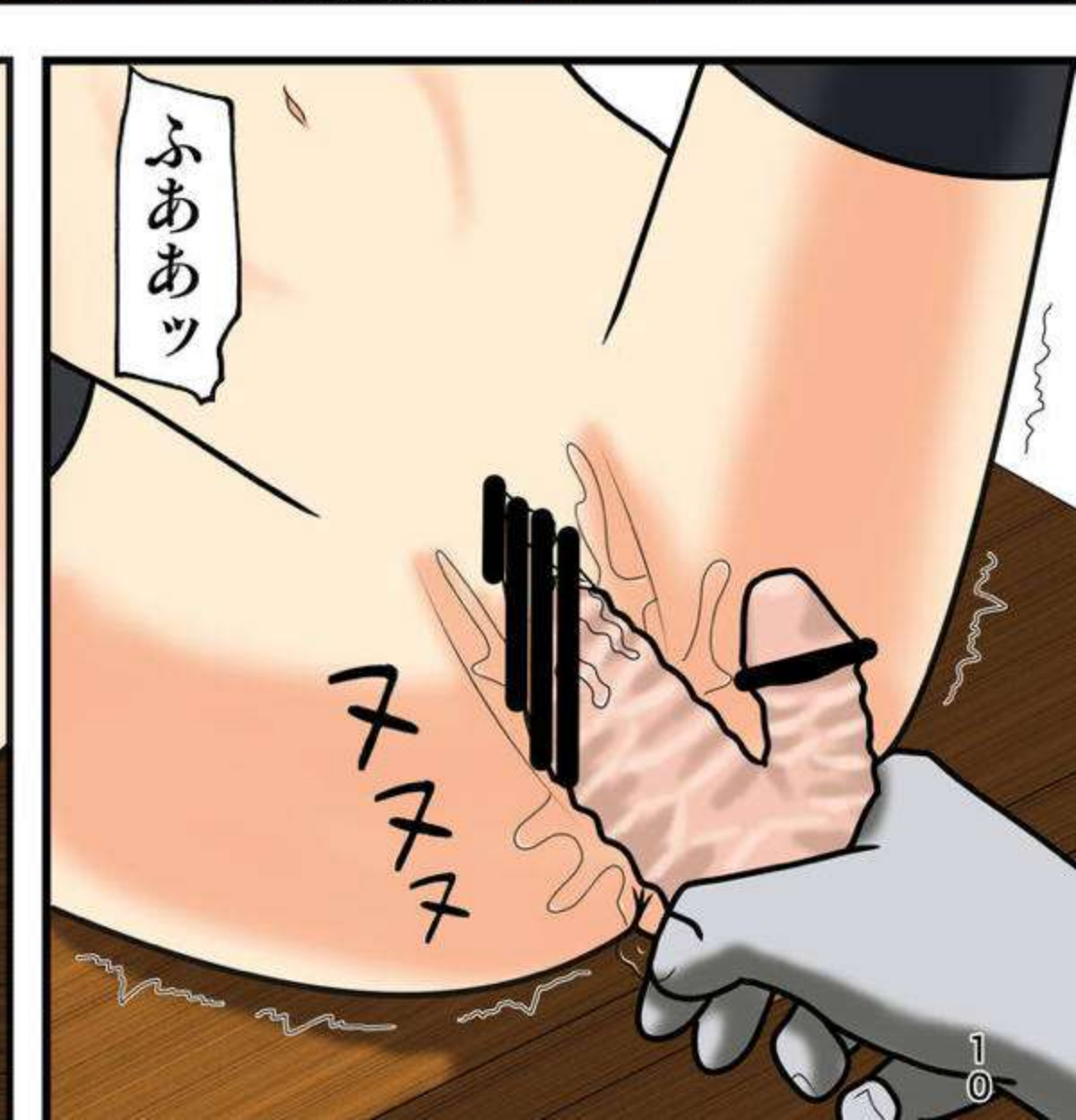
バイブに
犯されるッ!

あーッ!
先端が
入って!



あ〜ッ!

入れな
いでえ〜!





くくッ!
このヨガリようは...
こんなに張型で
狂うとはな...



あー!

動かさ
ないでッ!

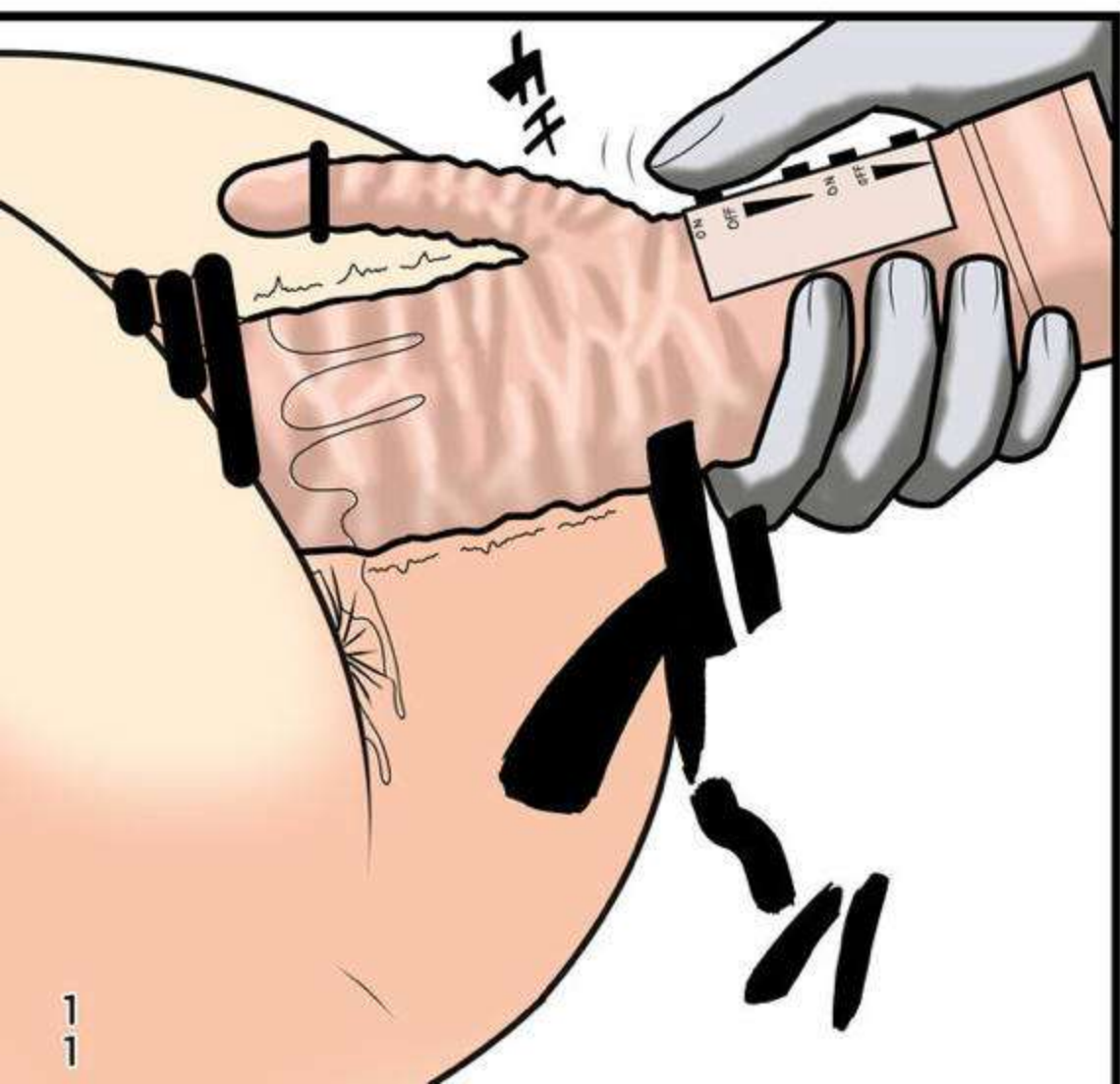


これッ
硬いッ!

貫かれ
てるッ!

も、もう
やめて...

ヌッ
ヌッ

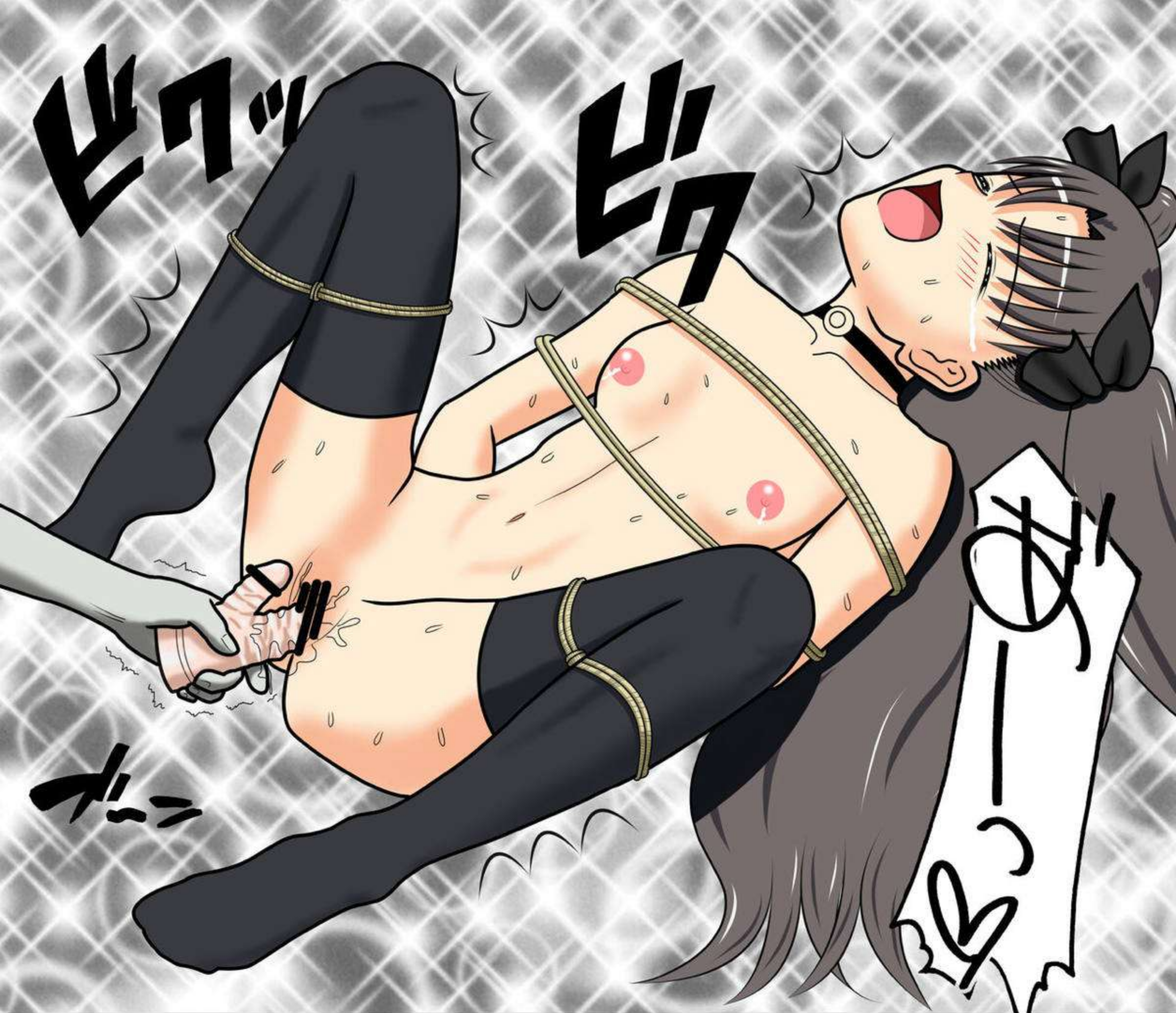


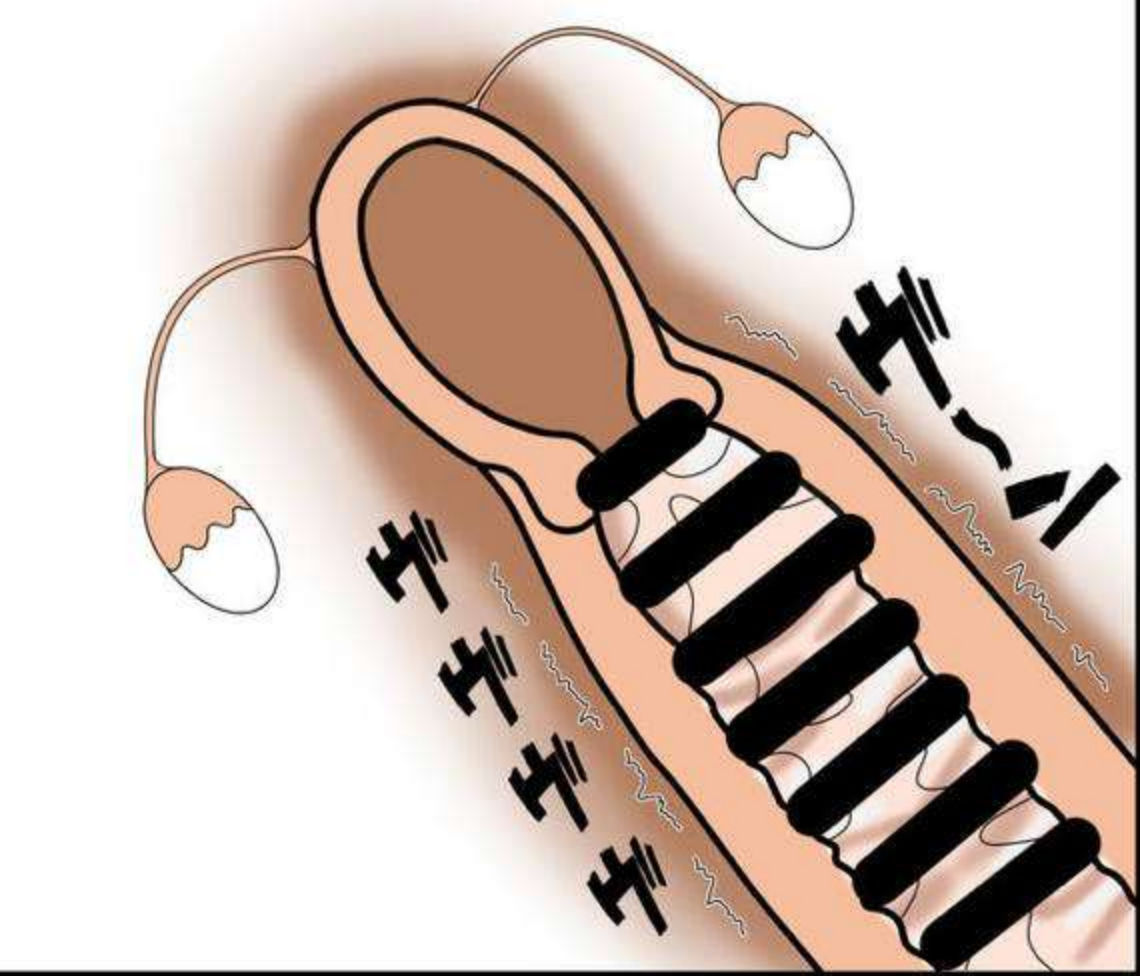
ズキ



何を言っ
てる?

これからが
本番じゃ!





振動を強めたらどうかかな？

凛は初めて他人に異物を腔内に挿入された汚辱感に、倒錯した性感を呼び覚まされ、胎内から響く未経験の振動に快楽神経を激しく揺さぶられた。更には精飲蟲が吐き出す媚薬混じりの毒により理性を失い、目の前にいるのが臓硯ということも忘れて狂態を晒していた。

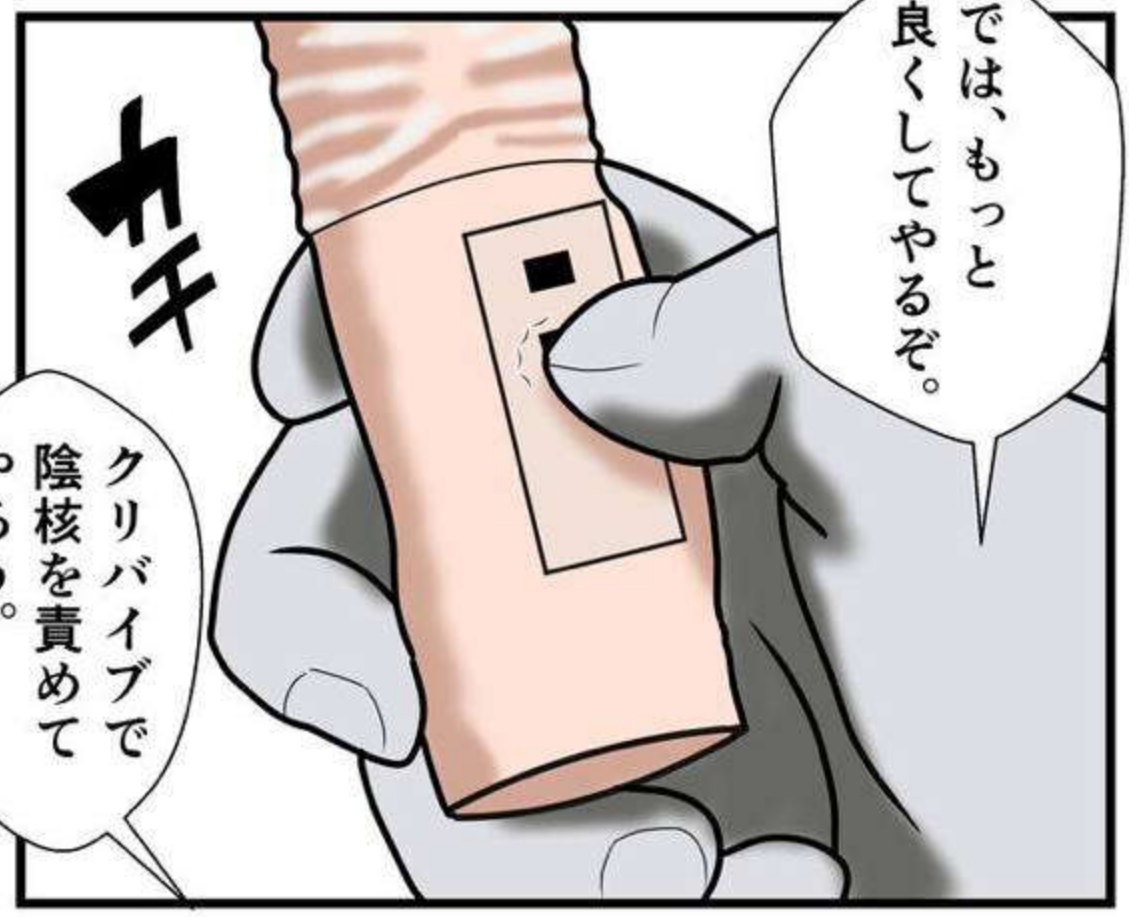
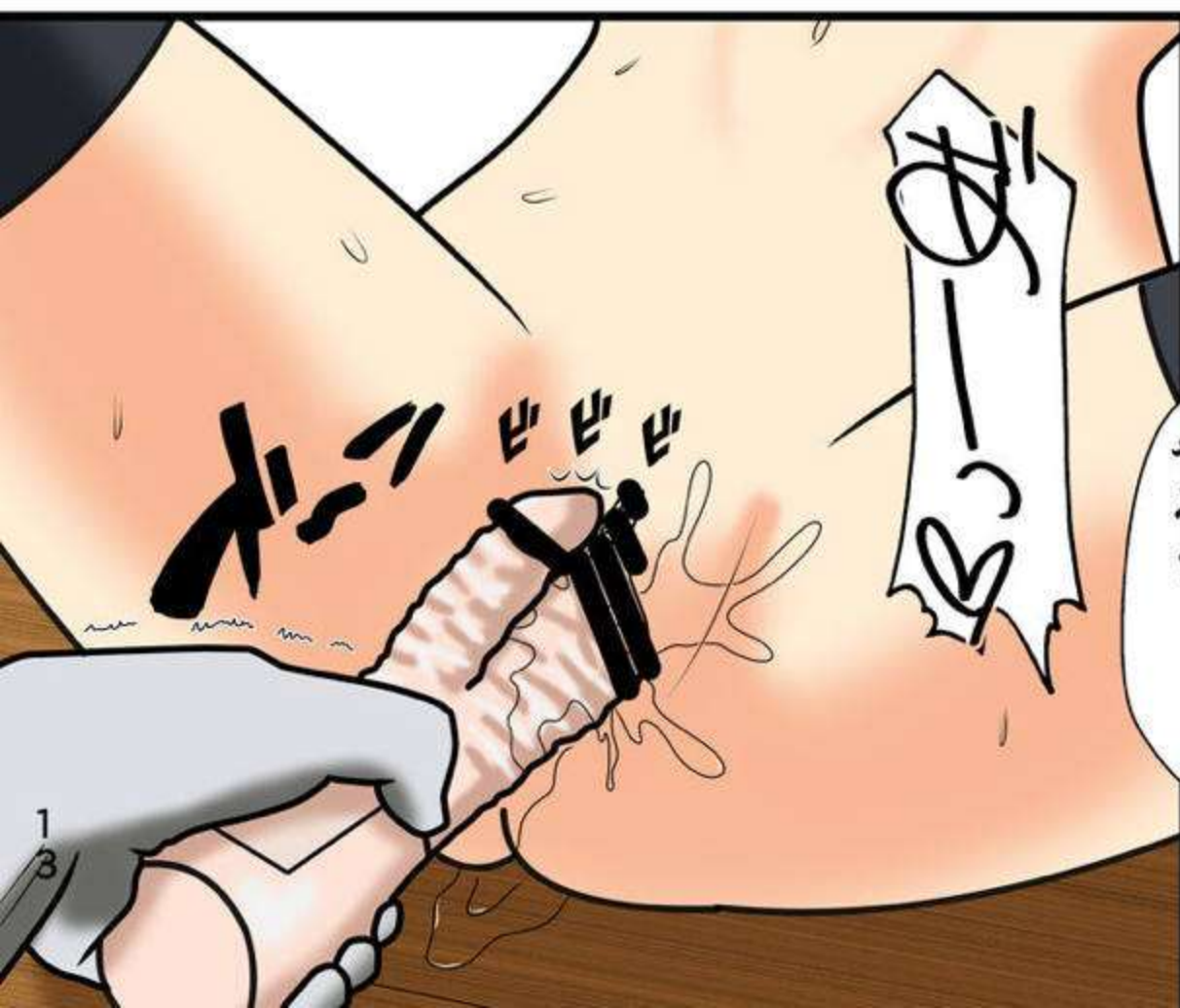


中がッ！

中から痺れてッ！

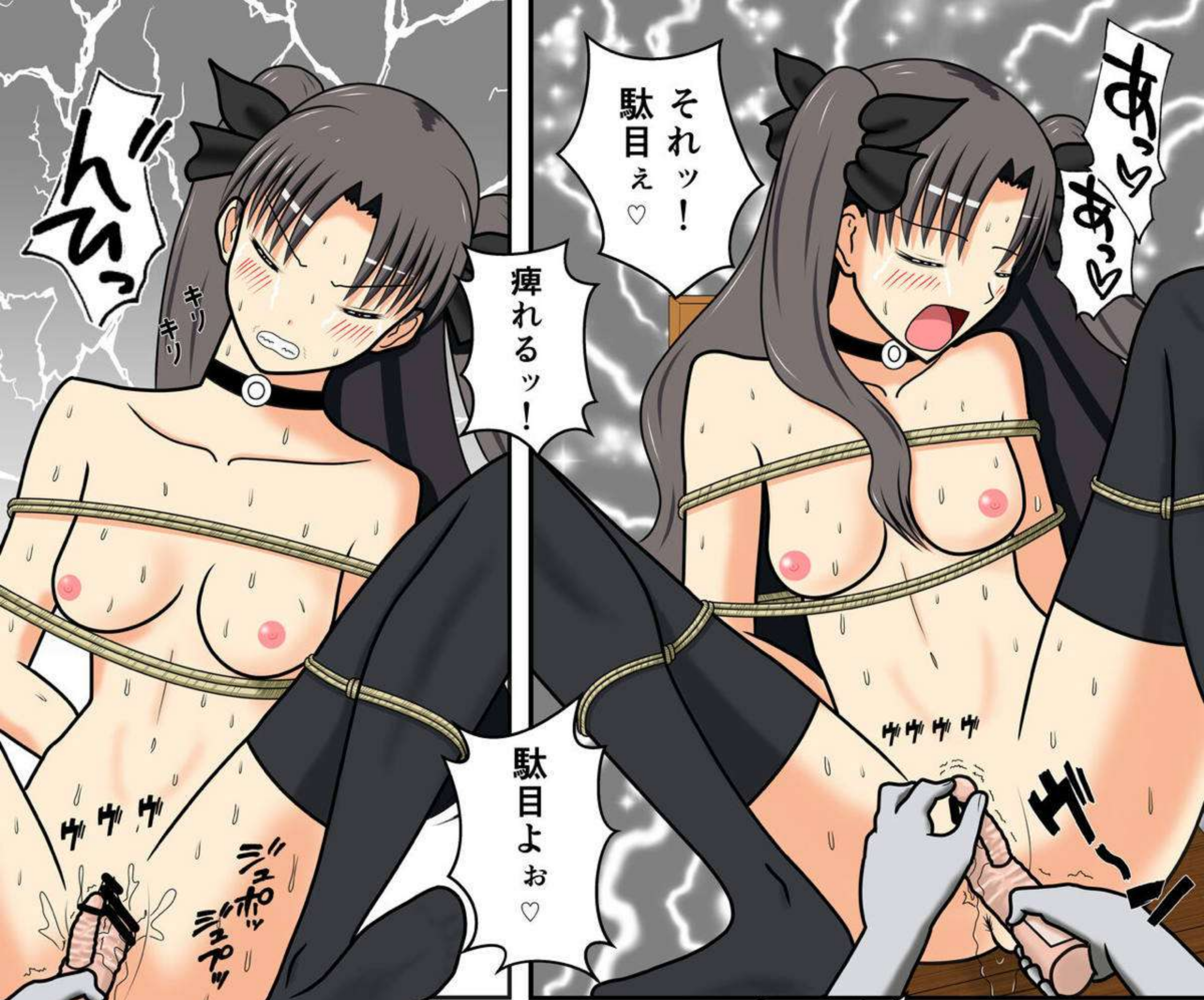
あゝ♡ あゝ♡

クッククック すっかり張型に夢中じゃな。気に入ってくれて僕も嬉しいぞ。



ではもっと良くしてやるぞ。

クリバイブで陰核を責めてやろう。



痺れるッ!

それッ!
駄目え♡

あゝあゝあゝ

駄目よお♡



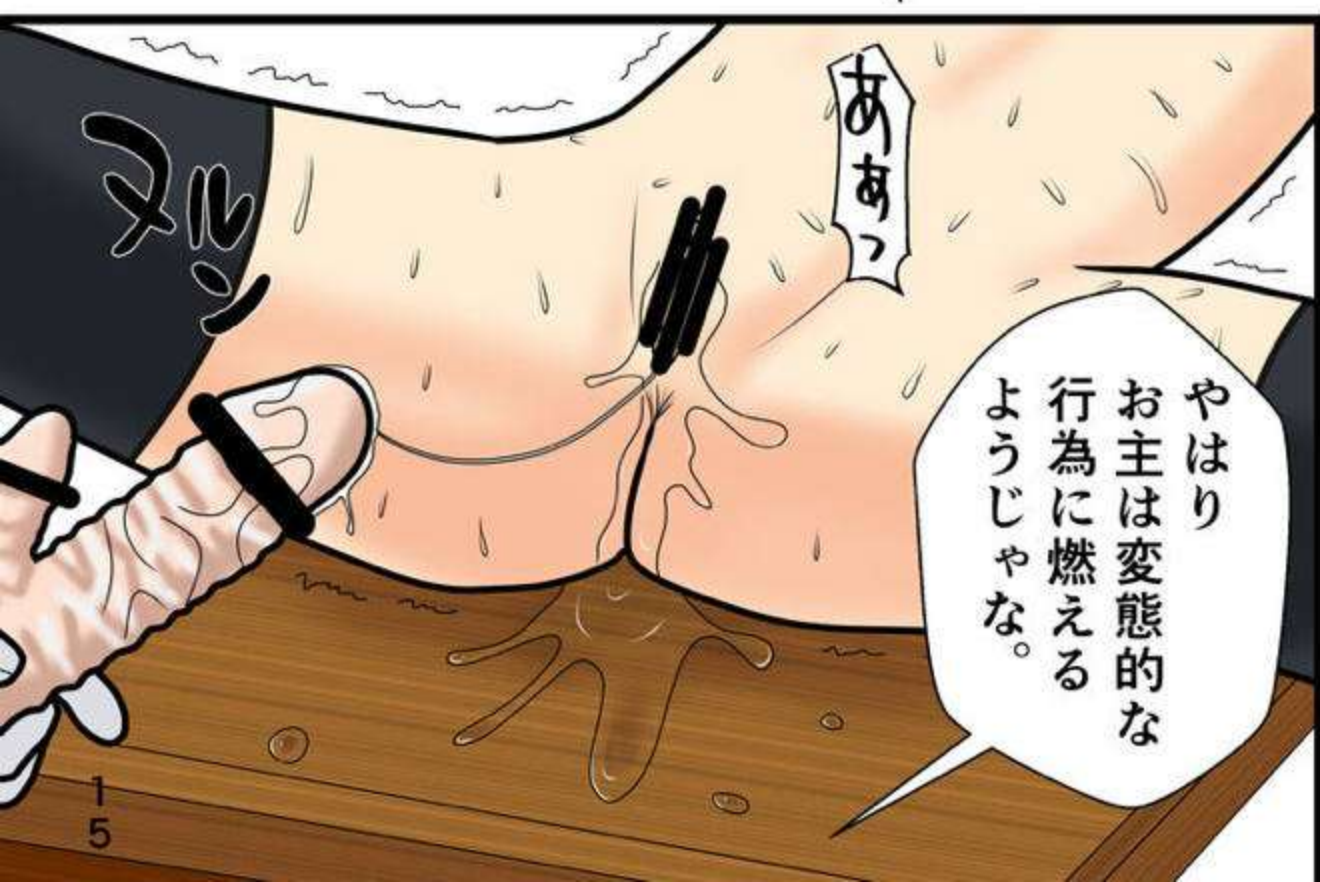
んっ♡
んっ♡



くく
もう気をやるな。

バイブを
抜いてえ♡

あゝあゝ♡
抜いてえ



憎むべき臓硯が操る
バイブに犯される。
その汚辱感が、精飲蟲の
蠱毒によって歪められた
凧の性感を極限まで高め、
今まで感じたことのない
鮮烈な絶頂を凧にもたら
せたのであった。



— 奥付 —

誌名 遠坂凧の日常4

発行 青年紳士同盟 (<http://syumitto.blog79.fc2.com/>)

発行者 中村 趣味人 (Nakamura Syumitto)

発行日 2014年10月26日 (サンシャインクリエイション65)

印刷 PICO (プリンティングイン株式会社)
http://www.pico-net.com/index_pico.htm

遠坂凛の日常4

青年紳士同盟

For Adult Only